日本の高校における「概念学習」の特徴と受容実態
―IBDP「言語A」の「7つの概念」に関する教授方略に着目して―

2021/9/5

日本国際バカロレア教育学会第6回大会

筑波大学大学院

田中　佳太

本発表の目的

国際バカロレアディプロマプログラム（以下、IBDP）言語Aを担当する日本の一条校の教師が概念学習を進めていくうえで抱える葛藤を明らかにする。

本発表の構成

１　問題の背景

２　研究方法

３　結果・考察

４　結論

５　本研究の限界と課題

１．問題の背景

認定校の拡大

◆　国際バカロレア認定校等を2022年度までに200校にする目標

(文部科学省2021）

IBプログラムに対する関心の広まり

◆　国際バカロレアの特徴的な手法やカリキュラムが日本の

初等中等教育改革に積極的な波及効果を与えることへの期待

（文部科学省 2018）

◆　知識基盤社会や知識活用型のカリキュラムに対応するモデル

（岩崎 2018）

IB教育の指導に関する特徴

・IB教育を特徴づける6つの指導のアプローチ（Approaches to Teaching）

1　探究を基盤とした指導
2　概念理解に重点を置いた指導
3　地域的な文脈とグローバルな文脈において展開される指導
4　効果的なチームワークと協働を重視する指導
5　学習への障壁を取り除くデザイン
6　評価を取り入れた指導

概念理解に重点を置いた指導
＝「各教科の理解を深め、つながりを見いだし、新しい文脈へと学びを転移できるようになるために、概念を探究」する指導

IBプログラムにおける概念学習

H. Lynn Ericson（2012） *Concept-Based teaching and learning*, International Baccalaureate Organization

◆概念が知識とスキルを結びつける

◆概念が事実レベルと概念レベルでの思考の往還を可能にする

◆学習では概念と一般化に焦点を当てて、時、文化、および状況を超えて転移する理解に繋げる。

VS

２次元カリキュラム

３次元カリキュラム

IBと学習指導要領との関係

IBの「概念理解」

各教科の理解を深め、つながりを見いだし、新しい文脈へと学びを転移できるようになるために、概念を探究します（IBO、2017、P7）

学習指導要領の「質の高い理解」

新たな知識が既得の知識及び技能と関連付けられ、各教科・科目等で扱う主要な概念を深く理解し、他の学習や生活の場面でも活用できるような確かな知識として習得されるようにしていくことが重要となる（高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説）

概念の深い理解、新たな知識と既得の知識・技能との関連付け、新しい文脈への学びの転移でIBと新学習指導要領との間に共通点が見られる。

ただし概念を重視した学習は、これまでの学習指導要領では明記されてこなかった。この点でIBプログラムは日本の学習指導要領で行われる教育の先行事例と捉えることができる。

先行研究①

半田淳子(2020)「国際バカロレアとは何か」『国際バカロレア教員になるために－TOKとDP6教科の学びと授業づくり』,大修館書店,pp2-15

- 最近はIBの四つのプログラムをより一貫性のあるカリキュラムにするべく、DPのカリキュラムで学習すべき「概念」が明確にされている。

- IBの教育をもっとも特徴づける「概念理解に重点を置いた指導」に関しては、新学習指導要領にも若干の記述は見られるが、その説明は不十分である。

先行研究②

中村純子(2019A)「国際バカロレアにみる国語科教育の方向性：PYP・MYP ・DP「言語A」カリキュラム分析」『 東京学芸大学紀要　人文社会科学系』70,pp1-13

中村純子(2019B)「国際バカロレアが目指す概念理解と国語科での指導の可能性：IB言語A PYP・MYP・DPのカリキュラム分析から」『 東京学芸大学国語教育学会研究紀要』15,pp20-29

◆ IBプログラムの「言語A」のカリキュラム分析から得られた知見を元に国語科教育を照射し、今後の国語科教育が取り組むべき方向性を考察。

先行研究③

Jane Madwell et al(2019), *Concet-based teaching and learning: Integration and alignment across International Baccalaureate programmes*, International Baccalaureate Organization

◆IBOカリキュラムリーダーが概念学習の重要性を認識し、概念学習をIB教育の重要な目標と見做していることを示す。

◆概念学習については指導の手引きや教師用参考資料を通して教師の実践を促すことが想定されている。

先行研究④

Amanda Romey (2021), *The Influence Of Concept-Based Instruction On Student Academic Engagement*, Submitted in Partial Fulfillment of Requirements For the degree of Doctor of Education, University of New England

◆インターナショナルスクールでPYPを担当する教師へのインタビューを通じて、IBプログラムの概念学習が児童・生徒の学術的・学問的な課題への関与を向上させることを示す。

◆DPに対する概念学習について、具体的な検証はなされていない。

＊学術的・学問的な関与（＝academic engagement）は、児童生徒の、勉強に対する姿勢・課題履行率・授業への参加・授業への傾注・学習への努力の結合体と定義。

先行研究⑤

中村敦雄(2020)「国際バカロレアの何が国語科にとっての示唆となり得るか」,全国大学国語教育学会編,『全国大学国語教育学会・公開講座ブックレット12国際バカロレアにおける「言語と文学」「文学」の授業から国語科のあり方を考え直す』, 東洋館出版社, pp93-102

「「概念」の機能の実相については、実践開始からさほど経過していないこともあって、未だしの状態にある。学習指導の過程で「概念」をどのように布置し、どのように働かせることが有効か、ATLスキルとの関連性を含めて、臨床的/実証的アプローチによる解明が欠かせない。」（p101）

先行研究にもとづく研究課題

日本でIB教育を担当する教師が、具体的な教科において、いかに概念学習を捉え、児童・生徒に対してどのような実践をしているかの検証が必要。

2. 研究方法

「言語A」の学習モデル

7つの概念

アイデンティティ（identity）
文化(culture)
創造性(creativity)
コミュニケーション(communication)
観点(perspective)
変換(transformation)
表現(representation)

- 言語Aは第一言語を学ぶ科目で、日本の学習指導要領にもとづく国語に該当。
- 2019年のカリキュラム改訂で概念学習（概念的理解）が強調され、7つの概念が明示。
- 概念が非常に重視されたが、概念に関わる評価要素に基づく評価はない。

問い

IBDP言語Aを日本語で担当する日本の高校教師が「7つの概念」を自らの指導方略に取り入れる際の促進因と阻害因は何か。

分析枠組み

藤岡完治（1998）「授業デザインの6つの構想要素モデル」

- ◆ 授業デザインは教師・生徒を同じ授業という一つのシステムのなかにいる対話をし合う存在とみなして、相互の動的な関係から授業が展開されると授業を捉える。

- ◆ 教材・単元構成・授業内容について担当教師の裁量が大きいIBDPの授業に関する分析に適したモデル。

図1　授業デザインの6つの構成要素（藤岡1998を一部改変）

調査方法：zoomを用いた半構造化インタビュー（2021年2月～8月実施）

調査対象者：2019年に改訂されたIBDP「言語A」を担当した、日本の一条校に勤務する教師12名

調査対象者の選定：自己選択サンプリング

データ分析：録音したインタビューデータを文字化したあとコードを付し、分析（佐藤　2008）。コーディングについては、概念枠組みに沿うとともに、研究参加者の発言に寄り添い、データを読みながら探索的に自由にコードを付すフリー・コーディングも実施（大谷　2019）。

研究参加者の基本情報

名前	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
IB指導歴	4	2	9	16	8	3	4	6	8	3	2	2
教員年数	14	2	28	19	10	6	5	14	11	13	36	6
公立／私立	私立	私立	公立	私立	公立	私立	私立	私立	私立	私立	公立	公立
MYP	あり	なし	あり	あり	あり	なし	あり	なし	なし	あり	なし	なし
教科	言語と文学	文学	文学	文学	文学／言語と文学	言語と文学	言語と文学	言語と文学	文学	言語と文学	文学	言語と文学
SL/HL	HL	HL	HL	HL	SL /HL	HL	HL	HL	SL /HL	HL	SL /HL	SL /HL

（2021年8月時点）

3. 結果・考察

本調査の分析で使用したカテゴリー

学習者の実態

教授方略

教師の環境・条件

教師のねがい

① 学習者の実態

- **概念学習への習熟**

MYP等からの学習方法の継続

- **概念学習のレディネスの低さ**

異なる学習方法の提示による混乱の回避

インタビュー１　概念学習への習熟

そう考えるとすごいなって思うんですよ。DPだけをやっている学校さんって。本校はMYPがあるおかげで、なだらかに概念みたいなことを取り入れていくことができるので、DPになったときにはMYPで散々言ったよね（中略）ということが前提で作品に入れるので。（教師D）

インタビュー２　概念学習へのレディネスの低さ

X校の子たちはDPからIB学習を始めるので、いきなり概念と言われても頭がこんがらがってしまうな（中略）というのがあって、（中略）あまり生徒たちに使わせるということはなかったかもしれないです。　（教師B）

② 教授方略

- **概念＝考えを整理し深める手段**

  テクストの考察に対する概念を通じた整理と気づきの獲得

- **概念＝考えを制限する枠組み**

  指定された概念に限定したテクストの考察

資料　概念を用いた振り返りシート

作品名（原題）	ハツカネズミと人間 ～OF MICE AND MEN～
文学形式	（ フィクション ・ ノンフィクション ・ 詩 ・ 戯曲 ）
作者	John Steinbeck　出版年 1937年
作者についての知識	1902年 "Salad bowl of the nation" とのあだ名を持つ移民地域であるサリーナスで誕生し、自然を巧みに表現しているのが特徴。事実を事実通り「非日常感覚」の人間で家族の日々が無秩序という環境で育つ。人種差別＋格差、精神障害者の対等論 偏見、個人的自己主張なども描く。
7つの概念との関連	
アイデンティティー	登場人物達の自我を保ったものが明確にされている。この自我を保つために自分を守ろうとする様子＋大きく見せようとする様子が、当時の人々の"個を守る"ことの重要性を、且つその自然が他者によって崩されていく様子が"個でいること"の難しさを表現している。自分を特別なものにしたいという葛藤から調和することで社会と生き抜かなくてはいけない苦労が描かれている。
文化	世界恐慌という社会状況の中、余裕のない人間がより下の人物を蔑視し、おとしめる事は、人間の醜い美の事を表現している。農場という狭いコミュニティー＋日雇い労働者という事も物の一部、黒人差別＋偏見。これらの長年に渡り受け継がれ、特殊な社会状態の中で増長した価値観がこの作品の登場人物をしばりつけている。（せめぎあう）
創造性	比喩が少ない → 直接的
コミュニケーション	作品内では、登場する全ての人物の対話・言葉・一挙動・フォーカスしている。その人達、話のトークに関係するのではなく、全ての[illegible]へ対話をしたのが決定的。スリム＋ボーカルといった対話者のフォーカスされていないことが、できるかもしれないが、登場人物の心理（無意識）に入込むことで作者の持つテーマを明確に表現することができる。
観点	必要の時代の中で、現状の[illegible]を問い直すことを[illegible]教えてくれた作者。登場人物達は、現代にかけても見られる。個人主義 と言われる現代の[illegible]社会への影響の大きさに気付きることができれば、まずは見方 と変えることができる。教訓的に捉えれば[illegible]見れば[illegible]の大きな[illegible]があるが、大きな価値観が[illegible]を[illegible]に[illegible]。[illegible]ワンシーンが[illegible]。
変換	アメリカ文学 → 日本語 への変換
表現	感覚、自然 というものが主に この作品の表現の[illegible]。[illegible]登場人物の[illegible]と登場 特に カードの事が[illegible]。[illegible]として使われている。自然 と動物がモチーフとなって人間の[illegible]を表している。

作品名（原題）	ハツカネズミと人間 ～OF MICE AND MEN～
文学形式	（ フィクション ・ ノンフィクション ・ 詩 ・ 戯曲 ）
作者	John Steinbeck　出版年 1937年
作者についての知識	1902年 "Salad bowl of the nation" とのあだ名を持つ移民地域であるサリーナスで誕生し、自然を巧みに表現しているのが特徴。事実を事実通り「非日常感覚」の人間で家族の日々が無秩序という環境で育つ。人種差別＋格差、精神障害者の対等論 偏見、個人的自己主張なども描く。
7つの概念との関連	
アイデンティティー	登場人物達の自我を保ったものが明確にされている。この自我を保つために自分を守ろうとする様子＋大きく見せようとする様子が、当時の人々の"個を守る"ことの重要性を、且つその自然が他者によって崩されていく様子が"個でいること"の難しさを表現している。自分を特別なものにしたいという葛藤から調和することで社会と生き抜かなくてはいけない苦労が描かれている。
文化	世界恐慌という社会状況の中、余裕のない人間がより下の人物を蔑視し、おとしめる事は、人間の醜い美の事を表現している。農場という狭いコミュニティー＋日雇い労働者という事も物の一部、黒人差別＋偏見。これらの長年に渡り受け継がれ、特殊な社会状態の中で増長した価値観がこの作品の登場人物をしばりつけている。（せめぎあう）
創造性	比喩が少ない → 直接的

インタビュー　概念＝考えを制限する枠組み

一つの作品のなかで2つか、3つくらいの概念を、ここらへんが当てはまるということで、事前に生徒にこの概念が当てはまる作品だよというような言い方をしたうえで指導などを始めていました。（中略）けれども、（中略）こちらが指摘した7つの概念のワード、IBが出したワードだけに当てはめようとして考えが広がらない、という様子が見られました。　（教師E）

③ 教師の環境・条件

- **他校の先生方との交流**

  IB教育の本質や生徒の概念理解を重視する実践例や教材研究の考え方についての議論・情報交換（ワークショップを含む）

- **概念学習の参考資料の不足**

  「指導の手引き」を含め、概念学習の指導に関する資料の少なさ

インタビュー　他校の先生間の交流

①ワークショップも、オンラインワークショップのほうに参加して、全世界の、（中略）スペインとかトルコとか、エストニアとか、そういう文学の先生たちがオンライン上でいろいろケアしてくれて（中略）それを実践に移すことはできたかなと思います（教師B）

②IB関係のJapaneseAのグループでのコミュニケーションとか勉強会とかが私はかなり助けになっているかなって思います（教師H）

インタビュー　概念学習の参考資料の不足

（IBOが提供する概念学習に関する情報について）少ないですね。あれはもうちょっと説明が欲しいです。そのアイデンティティというのはこういう文脈で使われるという具体例とかももうちょっと欲しいですし、大体のレベル感は分かるんですけど、教師用参考資料とか見ると。あ、このレベルまで抽象化するのかとか分かるんですけど、ただ、それもちょっと仮定でしかないので。

（教師G）

④ 教師のねがい

- **理念・目的の実現**

「IBの使命」や「IBの10の学習者像」から概念学習を行う理由や方法を根拠づけ

- **最終試験での点数獲得**

最終試験に向けてpaper2やHL小論文の指導をする時に限り、「概念」に関して試験対策として指導。

※2021年度、2022年度は学習した2つの作品を比較・対比するpaper2の試験は実施せず。

インタビュー　理念・目的の実現

難しいんです。正直言うと。何をどうしていいかという方法も書いていないし、それこそ概念というもの自体も理解するのがそもそも難しかったり（中略）。でも、（中略）最初はミッションステートメントに共感する、10の学習者像に共感してるからずっとこのプログラムを続けられているんだなっていうのは揺らがずにあるんです。

（教師D）

インタビュー　理念・目的の実現

だから困ったりしたときに、じゃぁもう1回ミッションステートメントで何のためにこの教育やっているのかな、ってよりよい平和な世界に貢献できる生徒たちを作らなきゃいけないんだっていうところに立ち返ってとか、10の学習者像を見て、（中略）全体を見直してから自分の授業に落とし込むということをしてきたんです。

（教師D）

インタビュー　最終試験での点数獲得

「7つの概念」をどのように使用していますかって聞かれたら、えっとすごい言うと使ってないですね。その部分に関しては。

でも、このあと、HL小論文を使うときに（中略）「7つの概念」を使って、今まで読んだ『こころ』とか『舞姫』とかとの繋がりであったり、ちがいであったりを考えながらHL小論文のヒントを得たいなと思っているので、そのときに他の作品の比較・対比をするときに使ってみようかな、という感じです。　（教師A）

インタビュー　最終試験での点数獲得

このコロナ禍で、21年22年と言語と文学の試験の配分が変わったんですよね。（中略）paper2がなくなったので、ホントに概念を試験として使用するというものがなくなってしまったので、授業の中でも蔑ろになったな、っていうのは正直ありますね。

（教師H）

教師Hのワークショップ前後でのカリキュラム観の変化

前

後

「7つの概念」を使用する促進因と阻害因

	促進因	阻害因
学習者の実態	概念学習への習熟	概念学習のレディネスの低さ
教授方略	考えを整理し深める手段	考えを制限する枠組み
教師の環境・条件	他校の先生方との交流	概念学習の参考資料の不足
教師のねがい	理念・目的の実現	最終試験での点数獲得

考察

Amanda Romey (2021）
IBプログラムの概念学習が児童・生徒の学術的・学問的な課題への関与を向上させる

日本の一条校でIBDP言語Aを担当する教師への調査から、IBプログラムが意図する概念学習を実施する際の課題が明らかとなる。

→　IBプログラムの概念学習が児童・生徒の学術的・学問的に好影響を与えると単純に言うことはできない。

4. 結論

結論

カリキュラム
日本での実践の少なさ
日本語による情報入手・共有範囲の制限
レディネスの低さ
参考資料の不足
教授方略に関する困難
最終試験での点数獲得
実践への戸惑い
生徒への効果

結論

IBプログラムの事例より、今後日本で実施される概念学習に対しては次の課題への取り組みが必要となる。

- 概念学習の好事例の蓄積
- 概念学習の教授のための参考資料の整備
- 概念学習に関する交流・研修の充実

→ （指導方法に関する内容
概念学習の目的に関する内容）

５．本研究の限界と課題

本研究の限界と今後の課題

・最終試験に変更がない状態での概念学習の指導についての調査

・概念重視の学習を通じて生徒に現れる学習効果の分析

・概念を重視したナショナルカリキュラムがある国のIBプログラムの分析

質問項目

「IBDP 言語 A(日本語)の概念学習に関する研究」インタビューガイド

1．インタビューに関する質問

1）あなたのお名前を教えてください。
2）あなたは国際バカロレアの教育プログラムを指導して何年目になりますか？
（2021 年 3 月時点）
3）あなたは教員何年目になりますか？ （2021 年 3 月時点）
4）あなたが 2020 年度に指導した IB 教育プログラムを教えてください。
5）あなたがこれまでに指導したことがある IB 教育プログラムを教えてください。
（2021 年 3 月時点）

2．「7 つの概念」に関する質問

IBDP「言語 A」の新カリキュラム（2021 年第 1 回試験）では「アイデンティティ・文化・創造性・コミュニケーション・変換・観点・表現」の「7 つの概念」を使用が推奨されています。この「7 つの概念」を用いたあなたの「概念学習」に関するご指導についてお答えください。

1）あなたが「7 つの概念」を授業で使用した（しなかった）理由を教えてください。

2）あなたが考える DP「言語 A」で生徒が「7 つの概念」を用いる利点について教えてください。

3）あなたが考える DP「言語 A」 で「7 つの概念」を用いた学習を指導する難しさについて教えてください。

4）あなたの単元の進め方を教えてください。

5）あなたは生徒に振り返りをどのようにさせるか教えてください。

6)「7 つの概念」は外部評価・内部評価に向けて習熟しておくべき事柄だという意見に対する、あなたのお考えを教えてください。

7）生徒の「概念学習」にとって、使用する概念を指定することが効果的であるという意見に対する、あなたのお考えを教えてください。

8） DP「言語 A」で、生徒の「概念学習」に関する指導をより充実させるために必要なことに関して、あなたのお考えを教えてください。

参考文献

国際バカロレア機構（2017）『国際バカロレア（IB）の教育とは？』
国際バカロレア機構（2019）『「言語A：文学」指導の手引き　2021年第一回試験』
国際バカロレア機構（2019）『「言語A：言語と文学」指導の手引き　2021年第一回試験』
文部科学省（2019）『高等学校指導要領（平成30年告示）』東洋館出版社
文部科学省（2019）『高等学校指導要領（平成30年告示）解説総則編』東洋館出版社
文部科学省（2019）『高等学校指導要領（平成30年告示）解説国語編』東洋館出版社
文部科学省（2018）「平成30年度文部科学白書」
文部科学省（2021）「国際バカロレア・ディプロマ・プログラムと学習指導要領との対応関係について」

Amanda Romey (2021), *The Influence Of Concept-Based Instruction On Student Academic Engagement,* Submitted in Partial Fulfillment of Requirements For the degree of Doctor of Education, University of New England

H. Lynn Erickson, Lois A. Lannning, Rachel French(2007) *Concept-based Curriculum and Instruction for the Thinking Classroom*,Thousand Oaks, CA:Corwin Press, （H.リン・エリクソン、ロイス・A・ラニング、レイチェル・フレンチ，遠藤みゆき・ベーアド真理子訳（2020）『思考する教室をつくる　概念型カリキュラムの理論と実践』北大路書房）

H.Lynn Erickson（2012）, *Concept-based teaching and learning*, International Baccalaureate Organization

Jane Madwell et al(2019), *Concet-based teaching and learning: Integration and alignment across International Baccalaureate programmes,* International Baccalaureate Organization

参考文献

岩崎久美子（2018）「日本：グローバル化とカリキュラム改革」岩崎久美子編（2018）『国際バカロレアの挑戦ーグローバル化時代の世界標準プログラム』明石書店

大谷尚（2019）『質的研究の考え方』名古屋大学出版会

佐々木幸寿（2020）「日本における国際バカロレア教育と東京学芸大学の取り組み」東京学芸大学国際バカロレア教育研究会編（2020）『国際バカロレア教育と教員養成　未来をつくる教師教育』学文社、pp1-10

佐藤 郁哉（2008）『質的データ分析法　原理・方法・実践』,新曜社

田熊美保，秋田喜代美「新しい学力像と評価のあり方」,秋田喜代美編（2017）,『岩波講座　教育変革への展望５　学びとカリキュラム』,岩波書店

中村純子(2019) 「国際バカロレアにみる国語科教育の方向性：PYP・MYP ・DP「言語A」カリキュラム分析」『 東京学芸大学紀要　人文社会科学系』70,pp1-13

中村純子(2019B) 「国際バカロレアが目指す概念理解と国語科での指導の可能性：IB言語A PYP・MYP・DPのカリキュラム分析から」『 東京学芸大学国語教育学会研究紀要』15,pp20-29

中村敦雄（2020）「国際バカロレアの何が国語科にとっての示唆となり得るか」全国大学国語教育学会編（2020）,『全国大学国語教育学会・公開講座ブックレット12国際バカロレアにおける「言語と文学」「文学」の授業から国語科のあり方を考え直す』, 東洋館出版社,pp52-61

半田淳子(2020)「国際バカロレアとは何か」 『国際バカロレア教員になるためにーTOKとDP6教科の学びと授業づくり』,大修館書店,pp2-15

藤江康彦「カリキュラムと授業のデザインと教師の専門性」秋田喜代美他編『授業研究と学習過程』,放送大学振興会,pp175-188

藤岡完治「授業をデザインする」浅田匡他編『成長する教師－教師学への誘い』金子書房,pp8-23

ご静聴ありがとうございました